

【今回の1冊】 サニッスダー・エーカチャイ著 松井やより監訳 (1994)

『語りはじめたタイの人びと—微笑みのかげで』(明石書店)

タイ=急速かつ根本的に変わりつつある。

農業国→工業国…社会的・経済的影響→普通の人々に直撃

- ・ 土地なし農民の出現
- ・ 文化・家族の崩壊
- ・ 環境破壊

農村破壊→他の社会問題

- ・ 都市のスラム化
- ・ 都市貧困層
- ・ 犯罪、売春、児童虐待



イサーンからの声

地域の特徴：東北部(国内最大地域)、一人当たりの年収は国内最低…出稼ぎへ
雨が少なくやせた土地→ユーカリプランテーションへの転換奨励

- ・ **村の沈黙** 出稼ぎ＝季節労働者…稲作に合わせて村に帰ってくる。
→天候によって帰れない年も(干ばつ)、さらに若者の間ではより長期出稼ぎに出る者も。
- ・ **バンコクでの危険な労働/家族の崩壊/今日のおかずはアリの卵とカブト虫にコオロギ**
ローイエット県の男性によるバンコクでのタクシー運転手業…勤勉ぐすり＝覚醒剤の使用。
→いかなければならない悪循環…稲作のために借金した肥料代の返済。
自然の中で採れる食べ物…土を掘る母親、子どもたち。
→森は消えていく。かんばつは長くなる。だから、食べ物はなかなか見つからなくなった。
家族が食べるための野菜を育てはじめた村人も。(p38)
- ・ **出稼ぎの子どもたちが戻ってきた** 迎え入れる親の複雑な心境。
- ・ **ヒキガエルが跳ねて収入もアップ** 4匹につき1パーツ…蚊やほかの昆虫の増加
- ・ **袈裟で稼ぐ** 基本的な価値観を犠牲にする金儲けの手段、中高年にうってつけの仕事。
- ・ **村人が選んだ木/当局と渡り合う/木を切って…木を植える/共有林の保護**
共産主義者との戦い→政府との土地争い } 商業用ユーカリプランテーションに反対
イサーン緑化再生計画：嘆きのクラー平原 } =森林再生計画自体には反対してない！
→政府と戦うには、迅速な行動と情報が大事
ユーカリは水を大量に吸い、土地がやせてしまい根で他の植物を殺す。放牧もできない。
→地代を払ってでも自分たちの土地で果樹栽培などをしたい。
- ・ **魂のバランスをとる**
飢えから解放されない限り、欲望から自由になりえない(カムケン・スワンノー住職)。
→開発に伴う物質主義の波に対する精神的な抵抗力。
→功德を積む＝己の義務を果たすこと。
いくら稼ぐかではなく、いくら節約するか →僧侶自ら実践。
- ・ **栄養失調から解放された少年** 無料給食提供、調査員の訪問/親の怒り
- ・ **貧困からの輝ける脱出** 宝石カットで成功！コーンケーン、ドーン・ハー村。
故郷に若い者のできる仕事さえあれば、家族から離れない →強い家族意識(収入、農業)
広がるビジネス…研修生の受け入れ/下がりつつある宝石の値段＝農業との両立が大事!?
搾取される南部

地域の特徴：イスラム教徒が多い。豊富な天然資源、漁業、農業地域。観光資源も豊富。
マングローブの急速な消滅→エビの養殖、観光開発。

- **漁民を追い出す観光業** 平凡な漁師には贅沢すぎる環境となってしまった海
→住民が抱える問題の変化：近代的なトロール船 →立ち退き(金と権力のあるよそ者)
- **勝利なき闘い** 住むことが許されない国立公園や森林保護区への指定
→土地税を支払っているようが関係ない/金のあるよそ者は土地局から土地を入手する。
→土地の権利書がないこと、多額の借金が何よりも問題。
- **森も魚も食べ物も、みんななくなってしまった** トロール漁船とマングローブ破壊
宗教の違いがさらなるへだたりにもなっている!?!…トロール漁業者や商人、行政当局は仏教徒。
- **資源が枯渇したとき** スズがなくなり県が廃れる/ゴムのプランテーションへ
→動物がいなくなってしまう：ゆったりとした変化だったのですぐには気づかない。
→山岳地帯に住んでいる人々が水不足を訴えだした。
死活問題となると、目先の利益に捕らわれがちに。人の気持ちもばらばらになってしまう。
- **国境を越えて出稼ぎに** マレーシアへ非合法的な季節出稼ぎ…漁、農家、森林伐採業者
→家族がばらばらになり、村のつながりも希薄になる。出稼ぎ中の覚醒剤使用も問題。
- **スラム立ち退きを意味する観光開発** 貧乏人がもっと苦しくなるはじまり
ソクラー県カオ・セン村=1957年に行われた集団移住以降年々膨れ上がる。
新たな立ち退き地はベトナムの“ボート・ピープル”収容地 →自国にいながら難民扱い!?
- **農民の生活を脅かす公害** 工場の弊害=汚染された田んぼ、よそ者に荒らされる生活
工場働く地元住民との間の亀裂 →まとまって抗議できない。そもそもトラブルを嫌う人も。
踏み荒らされる北部
地域の特徴：肥沃な溪谷(大半が山岳地)…山岳民族による自給農家。
森林減少、消費拡大による借金増加 →出稼ぎ、ケシ栽培へ。
- **土地投機家たちの打ち下ろす槌の下で/土地の権利を求めて闘う若者たち**
土地投機家という新たな侵略…村有林と主張しようにも土地権利書はすでにブローカーへ。
→村の年寄りを買収 vs 土地を守ろうとする若者グループ
「泣き叫ぶ土地」=休む暇なく働く土地 →農民が無理やり引き裂かれた土地(都会人の天国)
- **「土地売だし中」—ある生き方/土地ブームのあとの土地なし**
メーリム・サムーン観光道路周辺=土地価格は高騰を続けている
→はやくに土地を売ってしまった人々は日雇い農民となるが、耕す畑も新たな職もない。

2014年2月7日(金)

第8回「人間の安全保障」読書会 於 東京大学駒場キャンパス
「人間の安全保障」フォーラム事務局員 太田祥歌 readingcircle@hsf.jp

手に入れた金でどこか遠くのうまく売れそうな土地を購入する人も。

農民の資金不足、不安定な収穫量、生産過剰による価格暴落＝土地をよそ者に売る羽目に。

→もともと土地には法的な位置づけがなく、所有者も不明確。貧困により非公式に土地を売る。

金持ちがもっと高く土地を売ったことに気付いたころには、自分たちの土地はない状態に。

・契約農民へのいらだち／警告—タバコ栽培はあなたの健康を損なう恐れがあります

契約農業会社が持ってくる換金作物への挑戦：ベビーコーン

→換金作物へ背を向け複合農業を行う人も＝時間に追われる奴隷ではなく自分のペースで。

会社に定められ農薬濫用するタバコ→健康被害(人、動物)が出るも安全性への転換できず。

・ケシの花より悪いキャベツ 低地で米作りをする人々vs キャベツを育てる山岳民族

キャベツ栽培：政府の資金援助、山の雨水集水地で耕作するため下流への被害は深刻。

→ケシ栽培という問題の一面を解決してもだめ。森林は地元住民にとって第二の母。

・「南へ行く」少女／「私は娘を売ったんじゃない」

義務教育後の出稼ぎ＝売春(?)…家族を日々の苦難から救い出したい：成功の証としての家

山岳少数民族：不法労働により強まる不安…借金を返すために娘も働く

→貧困ゆえの軽蔑と苦勞のワナから抜け出す手段としての売春

→一旦、生活レベルの向上に成功するとタブーがなくなり皆進んでいくようになる。

・崩壊寸前のアカ族の村 チェンラーイ観光地化で土地投機家たちに買いつくされる

→山岳民族＝法的な地位が与えられておらず、脅迫や虐待の犠牲者になりやすい。

タイ国民になるよう政策を進められてきたにもかかわらず、国籍は取得できず身動きできない。

・変更に抗う伝統 プワン村で守られる精霊信仰と昔ながらの儀式

→団結が外部からの勢力を相手に改善したり、守ったりするのに重要。

→お金がないからお互いに頼る。順番に助け合い働く風習。(アウ・ムー)

＝必要に迫られてできた風習…ダム維持のための水管理システム、運用法。急速変化注意！